

し。(676 Jackson St, Seattle, Wash.)

西北部聯盟常任幹事 陸軍少尉 中山善四郎



西南の役後、明治十年九月、福岡縣浮羽郡水繩村に生る。縣立商工業學校卒業後、明治廿二年志願兵として、小倉第十二師團福岡二十四聯隊に入營、同三十五年三月陸軍歩兵少尉に任官さる。同八年留學の目的にて渡米し、シアトルに上陸するや、初志を酬して農業經營に轉身せるも、大正三年より洗染業に轉業し、爾來今日に至る。資性轄達磊落、小事に醜礙せずして大に語り大に談じ、政治家の氣風あり。一九三七年中村教士來講するや、同郷の交誼上極力應援し、北武各支部の今日あらしめたる功勞者なり。公共團體に盡す所厚く商業會議所、日本人會、海外協會の幹部なり。亡妻トシとの仲に孝子、忠の一男一女あり。(908 James St, Seattle, Wash.)

シアトル支部父兄會々計 谷口學

明治廿年、廣島縣高田郡三田村に生る。同三十七年、日露戰役の最中、弱冠十七歳にして勇躍渡米し桑港に上陸、其後約二十年間、加州各地に轉じて諸種の業務に従事せるも、一九二四年現住地シアトルに移轉、洋食店兼酒店を開業し爾來今日まで順調なる發展を遂げて來れり。夙に劍道に趣味を持ち、一九三七年中村教士の來講と共に、三人の子を入門せしめて熱心に教へを受けしめ、三男武夫は、一九三八年、中村教士と共に渡日させて、皇道學院に學ばしめつゝあり。妻光代との仲に和正(ハイ卒業)功(ハイ四年生)武夫の三男ありて一家頗る圓滿なり。(622 King St, Seattle, Wash.)

西北部聯盟師範、五段 菅原孫太郎

明治廿五年、秋田縣雄勝郡西馬音内村に生る。大正六年早稻田大學政治經濟科卒業後、翌七年渡米シアトル上陸、爾來二十二年間居住し、妻縁の内助と共に、ステーション・ホテル、ニューホーム・ホテル、大北館三個のホテルを獨立經營今日に至る。資性直情徑行、事に當つて聊かも躊躇逡巡することなく、勇往邁進の氣魄を有せり。劍道は大學在學中より天稟の鬼才を有し、常に同校の主將として名聲をなし、嘗て秩父宮殿下の幼年學校御在學時代に、拔擢されて其の教官たるの光榮に浴せし事あり、廿四歳にして高野佐三郎範士より五段を免許さる。一九三七年中村教士來講するや、大に意氣相投じて協力し、彼の事業を良く佐けて、西北部聯盟師範に推舉され、翌三十八年有段者會の設立と共にその顧問となる。妻縁との仲に尙信、文子、千代子の一男一女あり。(414 Main St, Seattle, Wash.)

西北部聯盟總師範、鍊士五段 原秋雄



一九一四年、原武の子として加州に生る。(兩親の郷里、熊本縣鹿本郡志々板村)フロリンのグラマスクール卒業と同時に中村教士の内弟子となり、其後、一九三一年劍道修行の爲同教士一行の武者修業團に加はりて訪日、同年歸米後中村教士と各地を巡歴し更に熱心なる修練を積み、亦斯道研鑽のため日本に渡る事前後三回各大家の指導を仰ぎ、一九三七年一月四日、廿五歳の時中村教士より四段を允許され、同年三月、西北部聯盟創立と同時に招かれて總師範の榮職に就き、別に同聯盟有段者會の相談役に推さる。爾來、客氣横溢、凜烈なる意氣を以て後進の

指導に當り、各支部より絶大なる稱讃と期待を受く。昭和十三年四月訪日、同五月京都大會に出席して卓拔なる技を示し遂に名譽ある錬士號を獲得す。(1403 Elmgrove St, Seattle, Wash.)

シアトル支部副會長、西北部聯盟有段者會長、二段 吉 富 淳 一



明治廿一年、福島縣郡山市古寺町に生れ、弱冠十六歳にして勇躍渡米桑港上陸。桑港及び南加羅府に於て語學を學ぶこと數年後、山中部地方を巡歴、一九二〇年シアトルに移住爾來二十八年間に及び、鐵道會社に勤務の傍らアパートメントの家屋土地共に購入し妻操と經營今日に至る。濃厚なる資性と健實なる生活は世人に認められ、金融組合等の會計に選舉されるの外、福島海外協會副支部長、日本人會參事員等に歴任し、良く其の責任を果せり。一九三七年中村教士の門に入り、熱心に劍道を修業し、同年三月二日二段免許され、若き二世後進の爲め献身的指導の任に當れり。妻操との仲に輝子(入嫁)君子(入嫁)澄子、錬太郎の一男三女あり心的物的にも、また恵れたる生活に入れり。(1214 E, Spruce St, Seattle, Wash.)

西北部聯盟有段者會事務理事、二段 尾 神 貞 一

岡山縣御津郡一宮村に、父幾八の長男として、明治廿九年に生る。大正二年十二月廿六日、年齒漸く十八歳にて渡米しタコマに上陸、直ちに父の許に來りて語學を學び、父業のサック製造會社を繼承し、ワシントン、オレゴン兩州に『尾神サック』の名聲を大に宣揚して今日に至る。資性溫和、且つ沈黙寡言、良く業務に精勵し、中堅實業家中の紳士的人物として評判さる。スポーツに興味を有し、特に劍道は學生當時より修練し、性格に似合はぬ剛劍を有せり。一九三七年中村教士の門に入り、同年三月廿一日二段を免許され、爾來熱心に精進しながら、若き二世と共に劍を合せて、後進の指導と教化に専念せり。妻勝子また明朗なる女性にて夫婦の仲に美智子(ハイ在學)敬凡(尋在學)照子(尋在學)の二女ありて一家極めて圓滿なり。(1921 E, Alder St, Seattle, Wash.)



して評判さる。スポーツに興味を有し、特に劍道は學生當時より修練し、性格に似合はぬ剛劍を有せり。一九三七年中村教士の門に入り、同年三月廿一日二段を免許され、爾來熱心に精進しながら、若き二世と共に劍を合せて、後進の指導と教化に専念せり。妻勝子また明朗なる女性にて夫婦の仲に美智子(ハイ在學)敬凡(尋在學)照子(尋在學)の二女ありて一家極めて圓滿なり。(1921 E, Alder St, Seattle, Wash.)

シアトル支部會計、初段 今 村 勝

明治廿年、福岡縣山門郡瀬高村に生る。郷里の中學校卒業後間もなく、明治四十一年五月一日勇躍渡米、シアトルに上陸し、爾來三十年間同地に永住、現住所に洋服洗染業を開業し、爾來今日に至る。資性極めて穩健重厚、學生當時より劍道を修練して深き趣味を持ち居りしも、渡米後業務に専念のあまり劍と暫く別れしが、一九三七年、中村教士來講するに及んで直ちに入門し、若き二世等と共に修練せり。一九三八年六月一日、中村教士より初段を允許され、今猶斯道に益々精進中なり。妻ハツノまた賢婦にして彼に良く仕へ、夫婦の仲に子實なきも、劍を愛子として夫婦仲よく生活せり。現福

シアトル支部理事、初段 永 淵 太 郎

明治廿一年、佐賀縣神崎郡西郷村に生れ、郷里の中學卒業後、暫く故郷に在りて商業に従事し、大正六年五月廿一日、商業視察の目的にて渡米シアトルに上陸、爾來二十一ヶ年間同地に永住、洗染業に従事今日に至る。資性佐賀獨特なる葉